

「今後の市立幼稚園のあり方」の答申について

出雲市教育政策審議会が令和 5 年 7 月 2 4 日に市長から諮問を受けた「今後の市立幼稚園のあり方」について、令和 6 年 7 月 2 2 日に答申がありましたので報告します。

1. 答申概要

第 1 章 出雲市立幼稚園の現状と課題

1. 市立幼稚園の設置経緯と幼稚園・保育所園児数の推移

●幼稚園の園児数は減少の一途

	ピーク時	令和 6 年度
幼稚園園児数	3,968 人 (S54)	→ 702 人
箇所数	34 園 (S63)	→ 25 園

集団生活の場での教育について、十分な効果をあげることが難しい園も見受けられる状況

2. 園児数の推移と今後の推計

●園児数は全園で減少傾向にあるが、特に市街地から離れた位置にある幼稚園で小規模化が著しい

●園児数の推計 就園率が低下し続けた場合 令和 1 5 年度：3 5 5 人

減少が加速しており、早急に新たな方針を打ち出し、必要な対策を打っていく必要がある

3. これまでの取組と経過

●「出雲市立幼稚園の閉園に関する方針（平成 2 4 年 9 月 2 8 日）」

☞ 5 か所の市立幼稚園が閉園（うち 2 か所は民間法人に譲渡し、認定こども園化）

●市立幼稚園での「幼児教育の研究・研修」「全園で保育所並みの長時間預かり」「特別な支援を要する幼児への対応」等の取組

☞ 園児減に歯止めをかけることはできていない

4. 市立幼稚園の課題

一定規模を確保した上で、子どもたちに「質の高い教育・保育」を提供すると共に、就学前施設として多様な保育ニーズに早急に対応する必要がある

第 2 章 幼児教育の方向性について

1. 審議を進める上での主な論点

●H27「子ども・子育て支援新制度」発足

☞ 社会全体で子どもの育ちや子育てを支えることをめざし、様々な施策を展開

●H30「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」

➡ 一貫性をもたせる改訂

☞ すべての就学前施設で「質の高い教育・保育」が求められている

☞ 一方、少子化・保育ニーズの多様化等もあいまって、市立幼稚園の小規模化が加速度的に進展

※出雲市の「幼児教育」が本質的にどうあるべきかについて、次の 3 つの論点を中心に議論

2. 3つの論点について

(1)幼児教育のあり方（幼児期に育てる姿）

幼稚園教育要領等の理念と、学びに向かう力の育成など幼児教育の重要性を改めて認識
幼稚園の「機能」は、幼児期における人間形成、就学前の教育として今後も保障する必
要がある

(2)集団教育のあり方（規模を含む）

一定程度の集団の必要性・重要性を認識しつつも、各地域の事情や経緯が異なることか
ら、市の全域に一律の人数をもって適正な集団規模を当てはめることは困難

(3)市立幼稚園が果たしている役割と今後の役割

これまで市立幼稚園が主導的に果たしてきた役割（幼児教育の研究・普及、保幼小連携、
特別支援教育、外国にルーツをもつ幼児の対応等）を維持・発展させる体制の構築が必
要

特に、幼児期の早期から対応する「特別支援教育の充実」は、市の施策の柱として重点
的に取り組むべき課題

3. 市立幼稚園が果たしてきた役割を維持するための方策について

●施設類型や運営主体にかかわらず発展的に「幼児教育」を普及させることは、審議会で認識した地域全体共通の方向性

●幼稚園の再構築のパターンを提示し、それぞれの地域が実情に合った議論をする中で最適な選択ができることを期待

第3章 今後の市立幼稚園のあり方について

1. 幼児教育のあるべき姿

●小学校教育に円滑に接続させるための幼児教育の充実を図り、一層の保幼小連携を推進

●幼稚園教育希望者（1号認定）の受け皿としての認定こども園化は時代の流れにおいて必然性が高い

●すべての就学前施設が幼児教育施設として機能することを期待

2. 幼児教育における集団の規模

●幼稚園の機能・役割発揮のためには、一定の集団を形成する中での活動が望ましいが、その規模を定義づけすることは困難であり、地域の状況も加味しながら幼稚園のあり方を判断

3. 幼稚園が果たす役割を形成するための施設形態・配置

●例えば中学校区単位での幼稚園の集約化や認定こども園化で集団規模の確保と保育所機能を持つことで、幼稚園が果たしてきた役割を維持

●認定こども園化にあたっては、社会福祉法人等が運営する認可保育所が、幼稚園が果たしてきた役割を引き継いで1号認定の3～5歳児を受け入れる方法や、市立幼稚園が0～2歳児を受け入れることによる公立の認定こども園が考えられる

●個別の幼稚園のあり方については、地域の実情等に十分配慮し、出雲市教育振興計画の方針などを基に判断

4. 特別な支援を要する幼児への対応や外国にルーツをもつ幼児への対応

●市立幼稚園が、特別な支援を要する幼児への対応の拠点として機能し、保育所等と共に推進できる体制づくり

●幼児通級指導教室の受入枠拡充と指導者の育成・増員及び指導ノウハウのすべての就学前施設への横展開

●外国にルーツをもつ幼児への対応の充実

- 時代の流れを敏感に捉え、インクルーシブで多様な保育・教育環境を整備

5. まとめ

- 市において市立幼稚園の今後のあり方の基本的な方向性を示し、真摯に幼児教育行政に当たること
- 地域の理解を十分に得ながら、全市での幼児教育の取組の向上と必要な支援体制の構築を期待

2. 出雲市教育政策審議会の開催状況（市立幼稚園のあり方検討に関する審議を抜粋）

令和5年度

第1回 令和5年7月24日（月）大会議室

【諮問】「今後の市立幼稚園のあり方について」

第2回 令和5年8月9日（水）大会議室

【審議】幼稚園・保育所・認定こども園に関するアンケートの実施について

第4回 令和5年10月3日（火）大会議室

【説明】園児数推計、アンケート結果等

【審議】①「公立」の役割、「幼稚園」の役割の再整理

②「適正規模」「集団」の捉え方

③多様な施設から就学することを前提とした支援の仕組み

第5回 令和5年11月15日（水）大会議室

【説明】認定こども園制度概要、市立幼稚園での幼児教育の取り組み内容等

【審議】3つの論点について ①幼児教育のあり方（幼児期に育てる姿）

②集団教育のあり方（規模を含む）

③市立幼稚園が果たしている役割と今後の役割

第6回 令和5年12月26日（火）大会議室

【説明】幼児教育指導員による各市立幼稚園の集団教育の取り組み状況の説明

【審議】3つの論点について ①幼児教育のあり方（幼児期に育てる姿）

②集団教育のあり方（規模を含む）

③市立幼稚園が果たしている役割と今後の役割

第7回 令和6年1月24日（水）現地視察

【審議】現地視察 ①上津幼稚園 「小規模園の状況」

②北陵認定こども園 「認定こども園の状況」

③今市幼稚園 「特別支援拠点園の状況」

第8回 令和6年2月5日（月）庁議室

【審議】3つの論点について ①幼児教育のあり方（幼児期に育てる姿）

②集団教育のあり方（規模を含む）

③市立幼稚園が果たしている役割と今後の役割

令和6年度

第1回 令和6年5月14日（火）庁議室
【審議】 答申素案について
第2回 令和6年6月3日（月）庁議室
【審議】 答申案について

3. 今後の予定

答申内容を十分尊重したうえで、関係地域・団体等の意見を広く聴取し、出雲市としての今後の市立幼稚園のあり方についての基本方針を年度内に定める予定です。